

幸福の赤いサクランボ



山辺町で唯一、育成され、品種登録されたさくらんぼに「ダイアナブライト」という品種がある。佐藤農園の佐藤光之助さんが育成し、1986年に申請、88年に登録された品種で、「世界のプリンセス」とうたわれた英国のダイアナ妃の来日(86年5月)にちなんで名付けられたという。私が就農したとき、父が管理していた樹園地に、植栽から8年目で、ようやく実をつけ始めた「ダイアナブライト」が2本あった。収穫期を迎え、2本の木から全部で3キほどを収穫し、母と2人で2粒ずつ試食してみた。



山辺産品種、ブランドに

これまで見たことがない大きさで、若い女性の肌に頬紅を薄く塗

ったような色合いと、上品なみずみずしい甘さにすっかり魅せられてしまった。

当時、山辺町近辺の農家では「ダイアナブライト」を導入し、栽培していた方がたくさんいた。山辺町で育種され、大粒で、しかも豊産性であるということで、多くの農家が期待して導入したのだった。しかし、芳しい評判はほとんど聞くことはなかった。

主力品種の佐藤錦に比べると、収穫期が遅く、そして何よりも、佐藤錦と交配不和合なので、結実が不安定になりがちだった。また樹体自体の成長過程が、他の品種と違うため、剪定などに特殊な管

収獲間近の「ダイアナブライト」山辺町大塚、2013年6月30日撮影

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリッパ工場長を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、1・7畝のサクランボ園を経営する。

理が必要とされた。

これらの理由から、栽培農家の中には伐採し、他の品種に改植する方がいるという話を聞いたりしていた。

偶然にも、私が就農した96年にダイアナ妃は離婚し、翌97年に不慮の交通事故で亡くなられた。私は、そのような物語性をもった「ダイアナブライト」をわずかな量だが、これまで大切に育て、限られた方だけに販売してきた。

これから先、山辺町生まれの高級ブランドとして、栽培方法をもっと研究しながら栽培面積を拡大し、販路を拡大したいと考えている。